

Ⅳ 表現化に視点をあてた学習展開の基本的構え

1 学習指導の基本的態度

本校の立場からすると、すべての教育活動について、表現化に視点をあたらない学習は存在し得ないことになる。特に精神薄弱を対象にした養護学校では、子どもたちの感覚的な生活から、表現するという知的、精神的な生活へ発展させていくことは、その過程での表現活動そのものが、社会的な人間を形成する上で、重要な意義を持つと考えるのである。

そこで、本校では、指導計画の構成にあたって次のことを基本的に考え、内容の組織化をはかった。

- ① 段階別教育内容を月別指導計画に構成する場合、まず第一に子どもの実態や発達の状態を的確にとらえることが重要である。すなわち、子どもの実態や発達の状態によって、行事や学習（作業）内容、季節感などを配慮して単元を設定し、指導計画を組み立てていくということである。
- ② 1分野の1項目のみを取り出して学習を組み立てることは、表現化に視点をあてた計画としては、充分とは言えない。精神薄弱児の一般的特性から考えてみても、学習したことを生活場面に活かすための転移力や適応力を働かすことは極めて困難である。従って、教育内容は可能な限り具体化したもので指導をしなければならない。具体化を考えれば考えるほど指導計画が統合されたものになるのは当然で、これが右図に示す条件整備としての合科統合などの方法である。
- ③ 条件整備として考えられる合科統合などの方法によって個々の子どもから引き出された表現化に視点をあてた学習は、表現化というプリズムを通して展開されることによって、学習内容は生きて働く力となり得るのであって、社会的自立を旨とすることになるのである。

以上の基本的態度をもとに組立てられた月別指導計画は、別添資料に示す通りである。しかし、表現化に視点をあてた学習指導との取り組みは、やっと出発点に立ったばかりである。概要の中で各学部について、指導事例を発表しているが、分野別教育内容の合科統合をはじめ、表現化のための条件整備など指導法にかかる諸問題は、次年度への課題として残されたままになっている。

